

新闻热点

にゅーす ことば
ニュースの言葉

政府在 2009 年第一次公布了 2007 年调查的日本相对贫困率（家庭所得在标准所得的一半以下所占的百分比）的结果。结果显示日本的相对贫困率为 15.7%，其中 17 岁以下的孩子的贫困率是 14.2%。在这之后的 2012 年的调查中，孩子的贫困率愈加上升，达至 16.3%，在经济协力开发机构（OECD）34 个加盟国中数值高居第 9 位。大约 6 个孩子中有一个人处于相对贫困状态，调查结果还显示单亲家庭中的半数都是贫困家庭。

在这样的社会状况下，吃不上一顿像样的饭的孩子、难以与忙碌的父母围着饭桌吃饭而吃“孤食（一个人吃饭）”的孩子、以及吃的东西总是同样的“固食”（每天只吃香蕉或是只吃同样种类的方便商店的便当等等）的孩子也明显多起来了。在孩子们生活的社区里，为了给像这样的孩子们提供便宜而有营养的食物以及有温馨团圆气氛的场所，就出现了“儿童食堂”。

“儿童食堂”这个名称，据说是 2012 年东京的一家蔬菜店的店主给起的，之后以此为契机传叫开来。后来，“儿童食堂”的活动就在各地开展起来。接着，根据 2014 年施行的“孩子的贫困对策法”，地方政府等也开始推进这项开设“儿童食堂”的活动，因此此活动发展迅速，据说现在在全国一共开设了 2286 所。

“儿童食堂”作为“孩子一个人也可以安心来吃的免费或是低价额的食堂”，餐费免费或是费用为 50 日元到 500 日元程度，一个月开办 1 到 2 次程度，开晚饭的时间大致从 5 点到 9 点的好像比较多。从利用者那里听到了“即使是不喜欢吃的东西，要是和大家一起吃，就会不可思议地都能吃下去”、“有家里没有吃的东西的时候，所以在这里吃上饭很高兴”、“妈妈

“儿童食堂” 「こども食堂」

政府は、2007 年に調査した日本の相対的貧困率（世帯所得が標準所得の半分以下の割合）の結果を、2009 年に初めて公表した。結果は、日本の相対的貧困率は 15.7%、そのうち 17 才以下の子どもの貧困率は 14.2% というものだった。その後、2012 年の調査では、子どもの貧困率は更に上がり、16.3% となり、経済協力開発機構（OECD）加盟国 34 国の中でも 9 番目に高い数字だった。約 6 人に一人の子どもは相対的貧困状態にあるという結果で、一人親家庭においてはその半数が貧困世帯であった。

このような社会状況の中で、食事をともに取れていない子どもや、忙しい親と食卓を囲めない「孤食（一人で食事をする）」の子ども、また、食べるものはいつも同じという「固食」（毎日バナナしか食べないとか、同じ種類のコンビニ弁当しか食べない等）の子ども等が目立つようになった。子ども達が生活する地域社会で、このような子ども達に安価で栄養のある食事や温かな団らんの場を提供しようと思われたのが「こども食堂」であった。

「こども食堂」という名付けは、2012 年、東京の八百屋の主人がつけたのが始まりと言われているが、その後各地でこの「こども食堂」の活動が広がっていった。そして、2014 年に施行された「子どもの貧困対策法」により、自治体等もこの「こども食堂」の開設を推進したこともあり、急速に広がりを見せ、今や全国 2286 カ所で開催されているとのことだ。

「こども食堂」は、「子どもが一人でも安心してこられる無料、または低額の食堂」として、食事代は無料、または 50 円～500 円程度で、月 1～2 回程度、夕食時の 17:00～21:00 ぐらいに開かれることが多いようだ。利用者からは、「嫌いな物でもみんな食べて不思議と食べられる」「家に食べ物がない



因为工作，回家很晚，晚饭几乎都是一个人吃，能和很多小朋友一起吃饭很开心”等的声音。

运营这些活动的是以社区里那些自己的孩子已经自立的中壮年人以及大学生等的民间志愿者为主体，最近好像也有从地方政府得到补助金的社区。

好像也有把“儿童食堂”看作是聚集贫困家庭的孩子的场所这样的偏见，但是最初开办“儿童食堂”的人们的想法是希望开辟一个各种各样的人都“可以安心自在的置身场所”。而且，对孩子们来说，如果能通过饮食、食物感受到丰富的人际关系、多种多样的价值观就更好不过了。因此，“儿童食堂”不仅仅是孩子们的场所，也成了育儿期的父母们或是因为工作忙而没有空闲的父母们的求助所（可以商量、咨询的场所），也有成为容易陷入孤立处境的高龄老人们的置身场所的情况。在近邻之间的交往等呈稀薄化的地区，“儿童食堂”也承担着作为建立社交网络的作用。此外，最近，也有为了解决在苛刻的条件下工作的在日本定住的外国人家庭的孩子们的孤食以及孤立于社会的状况而开办的“儿童食堂”的例子。

作为“儿童食堂”的今后的课题是，如何解决信息传不到真正希望来利用“儿童食堂”的孩子们那儿的状况、难以轻松无顾虑地利用的现状、志愿者的持续参加和资金的确保问题、以及为保障利用者的安全的保险加入的推广等等。



最近，在社区运营“儿童食堂”的人们之间开始了相互之间的交流，还建立了为了扩大这个圈子的联络会“儿童食堂”联网，为利用“儿童食堂”的人、想来帮忙的人、想开办的人提供信息。通过这个网站，可以检索全国的“儿童食堂”。 <http://kodomoshokudou-network.com/>

「いときがあるので嬉しい」「お母さんが仕事で家に帰るのが遅くなるので、晩ご飯は一人で食べることがほとんど。ここだと、いろんな子たちと一緒に食べられるので、とっても楽しい」等の声が聞こえる。運営するのは地域の子育てを終了した世代や大学生等の民間ボランティアが主体で、最近自治体からの補助金を受けられる地域もあるようだ。

「こども食堂」は貧困家庭の子どもを集める場という偏見を持たれる場合もあるのだが、元々この「こども食堂」を始めた人たちの思いは、多種多様な人々の「ほっとできる自分の居場所」を作りたいというものだ。そして、子どもにとっては食を通して豊かな人間関係、様々な価値観を感じられる場になれば、というものである。したがって、「こども食堂」は子どもだけの場ではなく、子育てや仕事で余裕のなくなった親世代の駆け込み寺（相談場所）的な場となったり、孤立しがちな高齢者の居場所となっている場合もあり、近所づきあい等が希薄化している地域のネットワーク作りの場としての役割も担っている。また、最近、日本で厳しい条件下で働く定住外国人家庭の子ども達の孤食や社会からの孤立を解決して行きたいと「こども食堂」を立ち上げる例も出てきている。

「こども食堂」の今後の課題としては、本当に利用してほしい子どもに情報が行き届かなかつたり、気軽な利用に結びつかかなかつたりする状況をどうするか、またボランティアの継続的参加と資金の確保、利用者の安全を担保するための保険加入の推進等が挙げられている。

最近、地域で「こども食堂」を運営している人たちが交流をし、その輪を広げるための連絡会「こども食堂ネットワーク」もでき、「こども食堂」を利用したい人、手伝いたい人、作りたい人に情報を提供している。このサイトで、全国の「こども食堂」を検索することもできる。(B)